



謹賀新年

新年会(1月21日)でお会いしましょう!

岩井重一氏が講演

「裁判員制度がスタート」

関東同窓会は1月21日、千代田区一ツ橋の日本教育会館で新年会を開催します。多数の皆さまの参加をお待ちしています。

懇親会に先立って、弁護士の岩井重一氏(62期)が講演します。演題は「裁



岩井重一氏

判員制度がスタートしました。

5月から始まった裁判員制度で、一般の市民が重要な刑事事件の裁判に参加する

ことになりました。あなたも裁判員に選ばれるかもしれません。

講演では、裁判員制度導入の背景とメリット、裁判員選任の手続き、どんな場合に辞退できるか、などについて分かりやすく説明してくれるそうです。

岩井氏は中央大学卒業後、弁護士になり、1991年に東京弁護士会副会長、2004年には同会長(日本弁護士連合会副会長も兼務)に就任。現在は日本司法支援センター(法テラス)の常勤弁護士推進本部長として活躍しています。

【日時】 1月21日(木)

講演会 午後6時半から

懇親会 午後7時半から

【場所】 日本教育会館9階 喜山倶楽部
千代田区一ツ橋 2-6-2

【会費】 4,000円

- ・地下鉄神保町駅下車徒歩3-5分
(新宿線、半蔵門線、三田線)
- ・地下鉄竹橋駅下車徒歩5分
(東西線)



関東同窓会のホームページ

<http://www.h5.dion.ne.jp/~uedakant/>

宇崎竜童氏出演で盛り上がり

第48回総会・懇親会に186人

関東同窓会は昨年6月27日、東京・千代田区の如水会館で第48回総会・懇親会を開いた。参加者は186人。世代を超えた同窓の仲間が、グラスを傾けながら近況や昔話を花を咲かせ、楽しいひとときを過ごした。

懇親会のメインゲストはミュージシャンで俳優の宇崎竜童さん。

「今日は本名の木村修司で出演します。宇崎竜童の場合はもっと高いギャラになります」と冗談を言いながら登場。出身校の明治大学OBで編成するデキシード・ジャズバンド「ジャミング・ホットセブン」、ドラマーの大隈寿男さんとの楽しい共演を披露した。

総会では、前年からの懸案となっていた新幹事長に栗山正雄さん(62期)を選出。また、会長経験者の石井光春さん、前田喜美子さんに相談役、幹事長経験者の宮島光男さん、成田邦夫さんに顧問

もつた歌と演奏は聴衆を魅了。会場の雰囲気はこれまでにない盛り上がりを見せた。

恒例の校歌・凱歌斉唱の音頭取りは藤村延魚さんと宮島光男さん。現役の応援団顔負けの迫力で座を盛り上げ、予定になかった寮歌斉唱(藤村さんは長い歌詞を最後まで記憶)、さらには三三七拍子の「太郎山逆さ霧の舞」まで飛び出した。年に一度の「ふれあい広場」は、熱気と笑い声に包まれながら幕を閉じた。

真山隆夫(62期)

次回の総会・懇親会は
7月3日(土)に如水会館で



チャンスを広げる「異業種交流会」

総会・懇親会に参加して 津島葉子(旧姓鈴木、97期)



上田高校のOBである叔父に誘われて、初めて関東同窓会の総会・懇親会に参加したのが3年前、それから毎年参加させていただいています。初めて参加したときには、私よりも何期も上の初対面の先輩が大勢いらつしやり、戸惑いました

が、参加する回数が増えるにつれ、覚えていくくださる方々も多く、楽しい時間を過ごさせていただいています。

参加してみて実感した同窓会の良さは、在学中は自分の学年の前後の先輩後輩としか交流するチャンスはありませんが、もっと幅広い期のさまざまな分野の方々とお話する機会を得られることです。さながら「異業種交流会」といったところ

でしようか。これだけバラエティーに富んだ方々とお話することは社会勉強になります。せっかく参加するならば、事にもつなげたいなど、私ができるだけ多くの方と名刺交換をするようにしています。が、知り合いになつた方から、また別の方を紹介していただいと、人脈は確実に広がっています。

上田高校と同じように創立100年を超える伝統ある高校は全国各地にあります。が、地元を離れたところで同窓会活動がこれほど活発な高校は聞いたことがありません。学生時代には思いませんでしたが、社会人になって仕事を持ってから、同じ高校出身であるということにつながる、とができる場があることは、とても貴重でありがたいことだと感じています。

ですから、これを利用しない手はありません。同じ期の友人と会う場として楽しむのもよし、異業種の方や学生の場合は社会人の先輩と交流する場と位置づけてもよいと思います。私も同窓会という場を有効に楽しみたいと思っています。



TOY'S FACTORY

Imaginations are free and fun,
and excitements more wonderful and much greater
“発想は自由に楽しく、そして感動は素敵に、より大きく”

株式会社 トイズファクトリー

名誉会長 井出 孝光(61期)

◎Mr. Children

◎ゆず

◎BUMP OF CHICKEN

◎ケツメイシ

◎RAG FAIR

◎上松秀実

◎湘南乃風

◎UNISON SQUARE GARDEN



上田ゆかりの映画に人気

「サマーウォーズ」と「カムイ外伝」

夏から秋にかけて、上田市に関係のある映画が2本上映され、いずれも大きな人気を呼んだ。一つは細田守監督のアニメ映画「サマーウォーズ」。上田電鉄別所線の丸窓電車、神科の伊勢山バス停など、故郷の風景がふんだんに登場する。観客100万人以上を動員し、文化庁メディア芸術祭賞のアニメ部門で大賞を受賞した。(本会主催で上映会開催。12ページ参照)

もう一つは崔洋一監督の「カムイ外伝」。忍びの組織を抜けた力ムイと追っ手の壮絶な攻防を描いた作品だ。原作者の漫画家、白土三平氏は終戦前後に上田市に疎開し、旧制上田中学に通っていたという。宮島光男氏(55期)が「カムイ」にまつわる思い出を寄稿してくれた。

カムイに想う

宮島光男 (55期)

劇画「カムイ

うによみがえってきた。そのころ

伝」や「忍者武

は真田の自然や風物、人情が作品

芸帳」の作者、

に色濃く反映していたとも知らな

白土三平氏が終

かったが、幼いころの原体験が自

戦前後に母校の

然に刺激されたのかもしれない。

旧制上田中学で

父が神川、母が殿城の出で、

学んでいたこと

隅田川に近い東京・本所に住んで

や、中塩田や真

いた一家は、父の死後、1945

田町横尾に疎開

年3月の東京大空襲で家が丸焼け

していたことを

になり、着の身着のままで信州へ

知ったのは、数年前に「ビッグコ

逃げてきた。私はその1年ほど

ミック」での連載企画を読んでか

前に真田町(当時は長村)横尾

らだった。学生時代、60年安保闘

の伯母の家にひとり疎開してい

争後のやや自堕落な下宿生活をし

た。伯母の家には男3人、女5

ていた時期に、大塚の貸本屋で借

人の従兄弟がおり、下の3人は3

りた「忍者武芸帳」を読みふけっ

つ上の従姉を先頭にほぼ同じ年ご

た思い出や、伯母の家に幼児疎開

る。食事となれば大皿に出された

し暮した真田の風景が走馬灯のよ

煮物や野菜を奪い合うようにして

食べたものだった。近くのお宮の下を流れてくる前の小川で顔や手を洗い、隣近所の荒っぽい年上の男子たちの後をいつも追っつけていた。夜は庭先にある便所へ行くのが怖かった。寝るのは2階の蚕室で、お蚕さんが桑の葉を食べる音を子守唄のように聞きながら寝入っていた。6歳ほど年長の白土氏も弟と2人、同じ思いで近くに暮らしていたのだろうか。

上田丸子電鉄真田線の北本原駅から神川へ降りて小さな橋を渡って歩いた道、傍陽線横尾駅から千古温泉へ下る道、信綱寺へ上る坂道など、白土氏の描く「カムイ外伝」の風景に投影されているような印象がしてならない。佐久育ちの崔洋一監督による映画「カムイ外伝」は「スガルの島」を底本にした脚本で残念ながら海の暮らしが中心だったが、ぜひ山里の暮らしを描いた続編を期待したい。また、母校に席を置いたことがあ

る白土氏にもお話を聞く機会を得たいものである。

深い。人口600万人の大連には日本企業も多く進出しており、日本人が6万人も住むという。一行は24日に旅順の二〇三高地に登った。ロシア軍の3層の堅固なトーチカや塹壕を見ると、日本軍が1万数千人の犠牲者を出したこともうなずける。参加者はNHKの「坂の上の雲」を、あの急峻な斜面を思い浮かべて観ることもだろう。

62期が初の海外旅行

大連、旅順へ4日間の旅



た07年には、武田氏の史跡を訪ねて山梨県を1泊2日の旅をしたが、今年は念願かなって初の海外旅行。今回も旅行業を営む秋田勇君の企画で実施した。

旅行先を大連にしたのは、同期の齊藤實敏君が退職後、「中日友好に貢献したい」として大連のIT企業で顧問を務めているので、彼との再会を楽しむ目的もあった。

25日は大連市内を見学。至る所に高層オフィス・マンションが林立、郊外にはテクノランド、大学村が広がり、中国の経済成長の姿を目の当たりにした。皆、異国同音に「これじゃ、日本はすぐに中国の尻に敷かれるな」。

不思議なことに、自転車道といっぱいに走る中国の街のイメージはない。4日間で目にした自転車はわずか10台余り。そこには大連特有の理由があるというが、紙面の都合で説明は割愛、ご容赦を。

建国60周年の中国。華やいたムードはないが、警官や軍人の姿は少なく、星海公園に集う若者や新婚さんの明るい笑顔が印象的であった。

夫人4人を含む21人の一行は10月23日から26日、中国の大連市を訪問した。62期は06年に奈良、大河ドラマ「風林火山」が放送され

大連は満州鉄道の本社があった町であり、日露戦争の最激戦地となった旅順も今は大連市の一部となり、日本とは歴史的につながり

帰国後の11月24日、神田で開いた反省会では、早くも「来年はベトナムかタイへ」の声が。

羽田啓吾(62期)

中山道69次を歩く(2)

蕨宿から横川まで、男性も参加



なっている浦和宿へ。さらに古中山道が通っていたという武蔵国一宮・水川神社の一の鳥居をくぐり、ケヤキ並木の参道を森林浴気分歩き、朱塗りの華麗な門に圧倒され、本殿に参拝。ただ、大宮宿は繁華街になってしまい、宿場の名残は「本陣跡」の看板ぐらいだ。

日本橋・道路元標から始まった中山道の旅。第2回からは男性も加わって一層楽しい旅になりました。一緒に歩きながら街道、宿場の今昔に思いをはせ、それぞれが感想を言い合って歩く旅は楽しい。「旅は道連れ」とはよく言ったものです。

第2回は6月7日、第2次・蕨宿から第4次・大宮宿まで。蕨宿は戸田の渡し川の留めに備えて2つの本陣があり、旅籠屋や商家も多かったという。本陣は現在、歴史民俗資料館になっている。また、古い商家や土蔵が所々に残っていて、宿場の面影を今に伝えている。焼米坂を上り、県庁所在地と

なっている浦和宿へ。さらに古中山道が通っていたという武蔵国一宮・水川神社の一の鳥居をくぐり、ケヤキ並木の参道を森林浴気分歩き、朱塗りの華麗な門に圧倒され、本殿に参拝。ただ、大宮宿は繁華街になってしまい、宿場の名残は「本陣跡」の看板ぐらいだ。

第3回は9月26日、第5次・上尾宿から第9次・深谷宿まで。桶川宿は江戸時代、武州紅花の集散地として栄えたとのことで、土蔵造りの商家などが今も残る。深谷宿は旅籠屋が80あり、中山道69宿のなかで最も多かった。特に飯盛女を置いた旅籠屋が多く、旅人は宿場の外れの松のところで前夜の思いを胸に振り返ったとか。

第4回は10月31日、第10次・本庄宿から第13次・高崎宿まで。本庄宿は商家も多く、宿内人口は4000人を超え中山道最大の宿として繁栄した。「ほんじょうかの歩道などが街道歩きを楽しくしてくれる。新町宿との間の神流川には、本能寺の変の後、滝川軍2万と北条軍6万が戦った古戦

場。新町宿の於菊稲荷や倉賀野神社には、飯盛女奉納の絵馬などがあり、宿場の繁栄を陰で支えた女性たちの気持ちを思いやった。

高崎宿は城下町のため、旅籠屋のみで、本陣、脇本陣は置かれなかった。江戸時代、高崎城下は「お江戸見るなら高崎田町」と謳われたにぎわいだっただけというが、現在の高崎城址は乾やぐらと東門が復元されているのみで、お堀の内には、市役所の高層庁舎、シテイーホールなどが置かれている。

第5回は11月29日、第14次・板

真田氏の故郷を訪ねて

「女性同窓生の集い」に29人

鼻宿から横川まで。安中宿は大名小路に郡奉行宅や武家長屋が復元され江戸時代にタイムスリップ。松井田宿は妙義山がせまり、前方には碓氷峠を望む山間の宿場。横川との間の五料には茶屋本陣お西お東の両家が当時の姿に復元、公開されており、立派な松の庭を眺めて感想を述べ合っている。時のたつのを忘れてしまう。

第6回は12月19日、碓氷峠を越えて軽井沢のクリスマスイルミネーションを楽しむ予定です。

清水計枝(64期)

一時校名にも入っていた「松尾」は古松尾城に由来していたり、校旗の六文銭や校門など上田高校にとつてなじみの深い真田氏ではあります。ゆかりの遺跡があることなど初めて知りました。これをきっかけに「歴女」に変身して、さらに真田の地を歩いてみようなどという声が増えてきました。

今回の参加者は69期を中心に52期から78期までの29人。同窓会理事長の日置さんや男性会員の参加もありました。

昼食は、真田氏歴史館で懇親会を兼ねて和やかに行われました。そばやうどんのすいとんに、ごまとかつねのおはぎというメニューに、差し入れの手作りの漬物や花豆の煮豆、果物やお菓子が色を添え、素朴ながら心温まる豊かな宴となりました。初めてお会いする先輩や後輩の方々と会話がありました。

私は14回目にして初めてこの集いに参加しました。昨年まで同窓会にも同期会・同級会にも関心がありませんでしたが、ご縁があった関東同窓会の役員をお受けしました。高校を卒業して40年、新たな出会いと緩やかな人の輪の広がりの中で、「新しい自分」を見つけたいと思います。

池田有美子(69期)



10月31日、旧真田町において「第14回女性同窓生の集い」が開催されました。今回の幹事は69期で、木曾泰子さんを中心に上田市



61年ぶりに恩師を囲む

48期、数学の唐澤隆三先生と再会

5月16日の「唐澤隆三先生を囲む集まり」は小林芳彦さんが準備

うりのキョトンとした目付きで、あいさつを始めた。

をしてくれて、新江古田駅前の「和み亭」に決った。

「今日、48期の皆さまが立派な会を開いてくれて、ありがとう。きっかけは小山比呂志君（60期）が以前私の所へ来た時、私の個人誌「柳」を差し上げたものが、みなさんに配られたようで：」

出席者は相田俊一、今井正明、小林芳彦、竹内淳美、田原敬、土屋侃司、富田幸正、堀内惇、山崎延秋、和田裕の10人。タクシーでお連れした芳彦さんに導かれて、

「私は12年前に妻を亡くしました。夜は1人で本を読んだり、原稿を書いたりし、昼間寝ていたりします。食事は朝夕2回。年をとって、小ボケ老人になりました」。

乾杯後すぐに、唐澤先生は昔と

お腹をこわしたとかで、先生はミルクとビールのグラスをなめながら、元気に話を続けられる。

乾杯後すぐに、唐澤先生は昔と

お腹をこわしたとかで、先生はミルクとビールのグラスをなめながら、元気に話を続けられる。

乾杯後すぐに、唐澤先生は昔と

お腹をこわしたとかで、先生はミルクとビールのグラスをなめながら、元気に話を続けられる。



唐澤隆三先生（前列左から3人目）と48期生

「以前一度、先生を辞めようと思って、今

井正明君に相談したら『続けた方がいいですよ』と忠告され、おかげで年金が多くてありがたい。唐澤先生のおしゃべりは続く。

たこと。また中2の僕らは校長室の床に座らせられ、石川先生の「無政府主義」に目を輝かせて耳を傾けたのであった。

私の家には電話はあってもFAXはありません。パソコンはありませんが、プリンターはありません。2人の娘の結婚には1円も出すことはできませんでした。

唐澤先生は旧上田中学を1936年に卒業され、北大理学部数学科へ進まれた。戦後、46年8月から翌年3月までの半年ばかり、僕らに数学を教えられた。海軍からの復員で頭髪は丸刈りであつた。忘れられないのは、先生が師事されていたアナキスト・石川三四郎先生を母校に招いてくれ

先生の畢生の事業は、個人誌「柳」の編集・発行で、54年創刊以来連綿と続いており、今年の11月号で通巻848号になる。一見弱そうな柳だが、風雪にも強く、世の役に立ちたいと、先生は願っておられる。一層のご活躍を祈りたい。

94年には売上が半分落ちてしまいました。仕事はどこへ行ってもありませんでした。会社はここまでかと思ひ、家内と幼い子供に頭を下げました。このことは、いま振り返ってみますと、いい思い出です。

論語に「民は之に由らしむべし。之を知らしむべからず」という言葉があります。辞書には国民に頼られることは容易だけれど、理解してもらふことはとても難しいと出ています。この国民を社員に置き換えてみたらどうでしょうか。ちよつと高慢な考えになるのかもしれないませんが一理はありそうです。

堀内 惇（48期）

営業は、当時と比べたら今のほうがはるかに楽かもしれません。ただ250円のお弁当には参っていません。安ければいいという考えは、モノ作りの人の夢を砕いてしまいます。でも、いいモノを作ることができれば、間違いなく夢はかないます。

自分で興した会社を辞めました

論語に「民は之に由らしむべし。之を知らしむべからず」という言葉があります。辞書には国民に頼られることは容易だけれど、理解してもらふことはとても難しいと出ています。この国民を社員に置き換えてみたらどうでしょうか。ちよつと高慢な考えになるのかもしれないませんが一理はありそうです。

いい仕事をするためには技術力が求められます。この秋の情報処理の国家試験を全員が受けてくれました。仕事も受注し難くなりましたが、会社が明るくなってきました。これは不思議です。

会社をどんな気持ちで経営していますかと聞かれたら言葉に詰まっていたのですが、今は堂々と、社会に貢献できる会社になりたいと言えるようになりました。

私は中小企業の社長は会社で一番偉くて、一番賢いと思つていました。何も偉くなく、賢くもありません。ただ会社は物事を多数決では決められませんので、最終結論を出すのが社長だと思つています。

28年前、一もうけをしようと思ひ独立しました。しかし金もうけという気持ちが強いと会社は成り立たないということに、時間が掛かりました。気がつくことができました。

家族より社員を大切にし、社員よりお客さんを大切にしなければ成り立たないということを知りました。そして世の中から尊敬される会社になつていってほしいと願つていなのです。

「以前一度、先生を辞めようと思って、今

（いい顔、いい声、いい心）

宮坂幸雄（57期）



上田高校 NOW



エアコンの風を追い風に

上田高等学校 学校長 関 哲夫

信州の紅葉も終わりに近づき、野沢菜漬の準備にいそむ季節となりました。関東同窓会の皆さまにおかれましては、ますますご健勝のことと拝察申し上げます。

6月27日に開催された関東同窓会総会には昨年に引き続きお招きいただき、宇崎竜童さんと明大OBジャズバンドとの素晴らしい共演を聞くことができました。また、67期の懐かしい皆さまともお会いすることができ、楽しいひとときを過ごさせていただきましたことにも厚く御礼申し上げます。

さて、皆さまご承知の通り、来年度は本校創立110周年を迎えます。この事業の一環として、本年度全普通教室に設置していただいたエアコンにより、生徒は快適な夏を過ごすことができました。34度を超える猛暑の中、下敷きやノートで顔をあおぎながら授業を受けていた昨年までとは打って変

わって、ヒンヤリとした感さえる教室の中で、集中して授業に取り組むことができました。昔に比べ、地球温暖化やヒートアイランド現象などで校地が熱くなっている上、補習や自習でお盆以外

御礼いたします。(表題はこの記事より借用いたしました)
今年ホームルーム教室にエアコンが設置された。これは夏の暑さを何とかしたいという声に応えて同窓会から出していたいただいた費用によるものである。「後輩たちにも少しでもよい環境で勉強してもらいたい」という先輩方の思いがこ

められている。
しかし涼しい風に負けて寝てしまったら、せっかくの先輩方の思いも無駄になってしまう。これをプラスにするもマイナスにするも1人1人の気持ち次第である。エアコンの風を追い風にして、上田高校生の夏がより充実したものにすることを望んでいる。

ソフトウェアの

システム技研株式会社

代表取締役 清水 通男 (66期)

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 1-34-1 サンフジビル 5F
TEL (03)5272-8830 FAX (03)5272-8836
URL <http://www.s-giken.com>

は多くの生徒が登校している現実を考えると、本当にありがたいことでした。

8月1日には、東北信や県外の中学生約800人が参加した体験入学があり、全参加者にエアコンを体験していただき好評でした。

同窓会やPTAの協力でエアコンを設置している高校は県下に十数校ありますが、1年から3年までの全普通教室に設置していただいたのは本校のみであります。

当初心配された室外機の音や熱は全く問題ありませんでした。

一方、合宿所の建設は入札の結果、施業者が決定し、12月より着工の運びとなりました。浴室棟が備わった合宿所も県下初(温泉に付随するものを除く)であり、今までの不便さを解消できることに重ねて感謝申し上げます。

最後に、本年度発行の生徒会新聞から、生徒による記事を紹介し、

聞か

「宇宙の不思議」分かりやすく

一般社会講座で平林久氏(60期)

本年度の「一般社会講座」は10月24日、文部科学省宇宙科学研究所名誉教授の平林久先生をお招きして、「宇宙の不思議」をテーマにご講演をいただきました。当日は、先生の高校時代の同期生、本校生徒、地域の方々で同窓会館大ホールがいっぱいになりました。

1時間半の講演の中で、人類の宇宙に対する知的冒険の旅を非常に分かりやすくお話しいただき、

気がつく、聴講者を飽きさせない先生の話術と、スライドの随所に挟まれている直筆のイラストの世界に引き込まれていました。

特に、宇宙に存在する電磁波によって観測されない何かを、先生は「暗黒物質(ダークマター)」と呼んでいましたが、その説明ス

められていた。しかし涼しい風に負けて寝てしまったら、せっかくの先輩方の思いも無駄になってしまう。これをプラスにするもマイナスにするも1人1人の気持ち次第である。エアコンの風を追い風にして、上田高校生の夏がより充実したものにすることを望んでいる。

▼平林久氏の話

「宇宙の不思議—上田盆地から137億光年まで」と題して講演。内容は、宇宙観が山に囲

まれた上田盆地より小さな宇宙から、遠大な宇宙観に至っていくものにした。電波天文学の道に進んだので、ここから見えてきた星の死(超新星、中性子星やブラックホール)や生、宇宙そのものの広がりと始まり(ビッグバン)など。この宇宙に私たちが存在する不思議、野辺山での研究や宇宙科学研究所に移ってからの電波天文衛星「はるか」をつかった研究にも触

れた。



学びの動機づけにつながる社会講座

関東からは講師 10人 社会講座担当 竹内正典

今年の社会講座は、9月17日に開催されました。社会の第一線で活躍する同窓生を講師に迎え、体験が聞ける貴重な機会です。今年は1年生ばかりでなく2年生も参加した講座になりました。講師は、例年の倍の22人をお願いしましたが、初めての講師が9人、また若い講師が多かったことも特徴でした。

90分の講座では、経験をもとにした説得力ある話に聞き入る生徒が目立ちました。関東同窓会からは木下嶺夫先生をはじめ10人近い講師（一般社会講座の平林久氏を含む）を推薦していただきました。22の講座は、それぞれ講師の特徴が出て、生徒はその魅力的な人柄や深い内容に引き込まれました。

講座はどうだったかの質問に9割以上の生徒が「役に立った」と答え、感想は「社会講座を通して、実際の仕事に触れ新たな発見をし、仕事への理解につながった」、「講師の先生方の人間としての魅力に圧倒され、自分自身の生き方を考える機会をもらった」という声が多く聞かれました。

自分を見つめ直す機会になった社会講座、同窓生や事務局のご尽力で大変充実した講座になりました。感謝しています。

講師の感想

▼木下嶺夫氏（59期）「石油開発という仕事」

96—06年の間、私が社長として取り組んだカスピ海沖プロジェクト

トを例に、石油の起源、分布・需給状況、探鉱・開発事業の進め方、産油国政府や国際石油企業を相手とする鉱区取得交渉の現実、必要とされるノウ・ハウなど、実体験

を紹介した。なじみのない話に、最初はあまり関心なさそうだった

が、一所懸命理解しようとする生徒もいて、頼もしく思った。11月に聴講生9人のうち3人から感想が届いた。石油産業のお金の大きさにびっくりしたとか、石油開発を含む国際動向の大切さを知って、日本の将来に思いをはせたとか、何事も誠実な対応が大切なことが理解できたなど、私の方がびっくりした。

▼船渡和男氏（72期）日本体育大学大学院教授「スポーツのアート&サイエンス」

スポーツにおける「かんじ」と「事実」のギャップをいかに埋めて能力を向上していくかがトレーニングの本質であること、社会貢献として、健康科学、体育科教育、スポーツ科学の3学術分野での基礎的教養科目の重要性を話した。集まった49人の生徒は熱心にうなずきながら反応してくれたので、非常に気持ちよく講義ができた。終了後、野球班員数人から専門的トレーニングに関する質問や「勉強と野球との両立」に関する悩み事相談があり、昔と変わらない真摯さ、またそこに文武両道の全国区たるゆえん、「試百難」の伝統を感じた1日だった。

▼竹鼻ゆかり氏（79期）東京学芸大学教育学部准教授

子どもを取り巻く教育環境や、

子どもの心身の健康課題が複雑・多様化している現代社会において、教員には学習、生活、健康、進路など多岐にわたる指導力が求められること、教育学部や教員採用試験の概要などを話した。教員志望の生徒約40人は進路選択にあたり、興味深く聞き入っている印象を受けた。

▼服部みどり氏（81期）有株式会社ポッシュベール代表

参加生徒18人。「美術を仕事にすること」というテーマで、自身の経験について話した。芸術分野には偏差値がないので、志す生徒は自分の実力が量れずに出遅れることも少なくない。方法を間違えると、進学・就職には結びつきにくいので、まずは自信を持ち、自分の意志を周囲に表明することを勧めた。仕事については、私に関わるキャラクター業界について絞り、ユーザーには見えにくいデザインする側のこだわりの例として、生徒にちょっとした絵を描いてもらい、それについて解説した。

▼田中渉氏（83期）電通インタテメント事業局映画・アニメ事業部プロデューサー「なぜ小説を書くのか」

過去3回の経験を踏まえ、今年は特に高校生の目線で話ができるものかと自分の高校当時を思っ

たことや経験などを写真やテキストにまとめ、25年後の社会人の自分にどんな影響を与えているのかを伝えようとした。高校生との精神的な距離を埋めようとトライしたわけだが、果たして効果があったか否か。自分としても疑問と不安が残るものだった。今すぐでなくともいい、1人でも2人でも私の話から何かを感じ、行動を起こす生徒がいてくれたら幸いだ。

▼宮澤泰正氏（84期）海洋研究開発機構チームリーダー（主任研究員）「現代海洋学への誘い」

生徒たちはたいへん熱心に聞いてくれたと思う。高校生に話をしたことはほとんどなく、うまく内容が伝えられたかどうか自信がないが、最後に質問が出たので少し安心した。自分が高校生であったときに、今自分が直面しているような科学研究の現場は想像もつかなかつたので、できるだけ現場の雰囲気や伝わるように話すことを心がけたが、独りよがりな話ぶりだったかもしれない。

このほか▼碓田茂氏（68期）医療法人社団ヒルデモア専務理事▼河野えり子氏（78期）観音崎自然博物館主任研究員▼滝沢綾子氏（91期）日本ペーリンガーインゲルハイム（株）医薬開発本部開発企画部員が講義した。



英語班が準優勝

県高校生ディベート大会

第17回長野県高校生英語ディベート大会で、上田高校英語班は決勝戦で惜しくも諏訪清陵高校に敗れましたが、見事準優勝しました。12月19、20日に川越市で開かれる第4回全国高校生英語ディベート大会に出場します。

高校生の英語ディベート大会は長野県が全国に先駆けて17年前にスタート。東京都、岐阜県など他県に伝わり、4年前に全国大会へつながる大会に発展しました。全国大会の優勝チームは世界大会への出場権が与えられ、来年の2月8日-19日にカタールに派遣されます。



ディベートというのは一つの論題に対して肯定側と否定側に分かれ、立論・質疑・アタック・ディフェンス・サマリー(まとめ)という一連の討議を経て勝敗を決定するゲームです。上田高校英語班の合言葉は「Let's go to Qatar!」です。

日本語でやってもむずかしいテーマですが、これを全て英語で行います。しかし、準備は日本語で行い、論題について新聞記事、書籍、インターネットで基礎的な知識を学び、データを集めてきました。この間、昨年の全国大会の英語ディベート大会の様子をDVDで見たり、何度も立論を書き直し、1年生vs2年生で英語ディベートの練習を積んできました。

英語班が学んでいる英語は形だけの英会話ではなく、豊富な内容をどう英語で表現し、ジャッジに訴えることができるかという実践的な英語です。校内の試合、他校期間で驚くほどの英語力と論理力を身につけて来るので、顧問の私たちも瞠目しています。

顧問 徳田稔 小山文夫

Ashley Jackson

男子1600mリレーで県大会優勝

陸上班、着実に実力つける

今年度は、3年生6人、2年生6人、1年生10人での活動をスタートしました。ここ4年間は北信越やインターハイに出場する選手が出ていない状況でしたが、昨年度からは、県大会で決勝まで進出する種目が出るなど着実に力を着けてきています。東信大会では男女合わせ優勝4種目を含め19種目で入賞して県大会出場しました。

県大会では、男子4×400mリレー優勝、男子400m5位、男子ハンマー投げ6位、女子走幅跳6位(上田高校記録)で北信越大会出場を決定。

優勝した男子4×400mリレーは、この種目の県大会での優勝は85年以来だそうです。奇しくも顧問の私がリレーメンバーの一員として優勝して以来ということでは何かの因縁を感じます。

インターハイ出場の最後の関門の北信越大会では、6位までがインターハイに出場できます。男子4×400mリレーは予選・準決を通過し決勝に進出しました。結果は残念ながら7位でインターハイ進出は逃しました。6位とは0.6秒差でした。

陸上班顧問 細田健司

青木淳氏(58期)、母の思い出を出版

同窓生の青木淳氏が豪快な母親の生きざまと家族の絆を描いた「かかあ天下が駆け抜けた」(文芸社)を出版した。終戦直後の貧しい時代に、どんな困難にも動じない豪放磊落な母親が家族を引っ張っていく姿を軽妙なタッチで描いている。

ドで面白いのは太郎山での火事騒ぎ。大学受験に失敗した憂さ晴らしに友人と登った太郎山でたき火をし、火災を起こしてしまう。火は瞬く間に燃え広がり、太郎山の歴史始まって以来の大きな山火事。警察署に駆けつけた母ミヨさんは「家に帰ったら、あつたかいウドンでも食べるか?」と一言。母のぬくもりが染み込み、涙をこらえきれなかったという。

青木氏は小学校4年まで小諸、同5年から高校卒業まで上田で暮らした。上田高校時代のエピソード

かかあ天下が 駆け抜けた

肝っ玉母さんの涙と笑いの感動人生

豪快、抱腹絶倒!

読み出したら止まらない
上田と小諸が舞台の23話

青木淳・著 (58期)

文芸社 東京都新宿区新宿1-10-1 TEL:03-5369-2299 (販売)

四六判・232頁
定価1,470円(税込)





寄付者 / 寄付グループ

期	氏名	金額	期	氏名	金額	期	氏名	金額
42	横山誠之助	2,000	61	笠井徳爾	10,000	62	村上国夫	1,000
44/4	小林一雄	4,000	61	沓掛 忠	6,000	62	グループ	1,000
46	神林常視	10,000	61	久保田敬雄	4,000	63	木村公平	3,000
49	荻原 賢	20,000	61	荻原隆治	2,000	63	田中 稔	2,000
49	堀内寅次	2,000	61	西澤正捷	2,000	63	藤川 昇	2,000
49	風間 充	1,000	62	白井宏和	5,000	64	関川 哲	2,000
51	中島 宏	10,000	62	宮坂和夫	5,000	64	春原和民	1,000
51	丸山瑛一	2,000	62	福田修三	4,000	65	上原 昇	2,000
54	石井光春	10,000	62	秋田 勇	2,000	65	小宮山豊	2,000
54	加藤 廣	10,000	62	浅井保雄	2,000	65	小山雅堂	2,000
54	横沢武典	10,000	62	小川朝行	2,000	65	宮原 豊	1,000
54	有賀俊雄	5,000	62	片山隆行	2,000	66	竹内豊和	1,000
54	前田喜美子	2,000	62	柄澤 堯	2,000	67	グループ	2,000
56	神津 進	2,000	62	木内和宣	2,000	69	土屋文男	2,000
56	赤尾信吉	1,000	62	桑田博章	2,000	72	関 博明	2,000
58	寺島紘士	2,000	62	高梨奉男	2,000	72	田中 誠	2,000
59	清水侯博	1,000	62	田島善光	2,000	72	福田礼子	1,000
60	日置勇二	50,000	62	土屋和猛	2,000	72	山崎初美	1,000
60	中島敏男	50,000	62	中村真一	2,000	74	坂口洋三	2,000
60	沼形泰枝	50,000	62	西沢邦宣	2,000	74	大場英昭	1,000
60	白井 透	22,000	62	松井由美	2,000	79	荻原 貴	1,000
60	福嶋 宣	12,000	62	真山隆夫	2,000	79	中村通孝	1,000
60	鷹野芳機	12,000	62	宮坂信章	2,000	80	會田信子	20,000
60	大橋邦夫	2,000	62	宮崎信二	2,000	81	服部みどり	1,000
60	沓掛行徳	2,000	62	室賀太郎	2,000		上田球友会	3,797
60	丸山久勝	2,000	62	諸岡健児	2,000		執行部有志	17,894
60	平林 久	1,000	62	柳澤敏雄	2,000			
60	三井武雄	1,000	62	依田欣五郎	2,000			
60	有志	14,150	62	片山登喜男	1,000		合計	468,841



小林宏行さん (59期) が連覇

ゴルフコンペ、大雨の中で続行

秋の同窓会ゴルフコンペは11月11日、取手国際ゴルフクラブで開催された。あいにく朝から強い雨でキャンセルが続出し、参加者は34人(うち初参加は6人)となった。しかし、終日降りしきる冷たい雨の中、途中でやめようという声が出なかったのは、皆さんお年の割にはまだまだ元気な証拠か。

今回は出身地の近い人で組合せしてみたが、年代を超えた同窓会ならではの顔合わせになったと好評だった。

優勝は小林宏行さん(59期)が春に続く連覇という偉業で、成績はネット73(グロス94)。準優勝は出場2回目の小林諒一さん(63期)、3位は初出場の小山平六さん(62期)。ブービーは、こちらも初出場の田島善光さん(62期)。ベスグロは、悪条件のなか唯一の80台はさすがの西澤省悟さん(65期)で、グロス87。

期別対抗戦は、4人以上参加の5チームで争われたが、4人中3人が初出場者の腕自慢で固めた62期が平均ネット74・8という好スコアで初優勝を飾った。2位は最多7人参加の63期が続いた。春秋の連覇を達成した小林宏行さんの優勝の弁。「まれにみる悪コンディションで皆さんがやる気をなくしているなか、思いがけない優勝でした。いたるところ出現した池でボールと一緒に探してくれたパートナーとともに、忘れられない1日でした」。

丸山暢久 (65期)

訃報

心よりお悔やみ申し上げます。

28期	滝沢正人	2007年9月7日	48期	依田好永	不明
38期	矢嶋 仁	2007年3月29日	49期	島田 至	2009年5月5日
39期	永田幹夫	2008年4月13日	49期	村田種雄	2008年9月
40期	小林郷司	2009年9月5日	50期	星谷嘉一郎	2006年7月25日
41期	小田切昌三	2007年10月2日	51期	荒井信明	2009年以前
41期	飯島文作	2009年4月5日	52期	吉沢正人	不明
42期	堀内彬明	2009年3月9日	52期	内堀弘一	不明
42期	堀内博一	2008年4月28日	56期	永井佳雄	2008年10月
42期	橋本英典	2009年5月19日	59期	桜井裕夫	2005年8月
43期	平林 直	2009年1月18日	62期	石井武久	2009年8月
43期	寺尾 康	2009年4月26日	65期	高橋俊夫	不明
47期	石川重成	2009年1月14日	66期	小林 博	2008年1月
48期	尾山政徳	2007年以降	68期	小松育二郎	2005年
48期	酒井寛文	2008年12月	69期	柴田幹雄	2008年1月
48期	渡辺茂雄	2009年2月6日	74期	大場英昭	2009年8月31日

第9代会長 (1987年~90年)

小林郷司先輩 (40期) 逝く

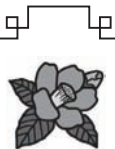
(9月5日逝去)

矢島五郎会長の会務運営方針を受け継いで関東同窓会の発展に寄与された。

独特な個性と情熱で、真摯な態度で会務に真剣に取り組まれた。役員はじめ会員に対しても大きな声で叱咤を放った姿勢がしのばれる。その半面、事が成就したときには大喜びで満面に優しい笑みを浮かべ両手で合掌された。

上田中学校の伝統を尊び、その精神を貫いた先輩の教導の数々を想起し、深謝申し上げる。どうぞ、安らかに眠り下さい。

山崎延秋 (48期)



会員短信

第48回総会への
出欠はがきより

25期 宮入博

昨年9月、100歳を迎えました。

37期 岡清助

戦争と戦後と平和を駆け抜けた37期は今消えようとしている。上田中学柔道部の一員として学んだ5年間の自負と責任と自信らしきものを堅持しつつ、恩師、大先輩、親愛なる同輩・後輩の冥福を祈っている。

40期 井本公一

老齡かつ宿病もあり、本年限りで退会します。

40期 渡辺久雄

当年85歳。戦場もシベリアも何とか生き延びて、先に逝った仲間には申し訳ないが、平和で豊かな世界を楽しんでいます。

43期 土屋啓

脳梗塞のリハビリで10年たちました。小康状態ですが、遠出は控えています。

43期 土屋功

加齢のため歩行困難療養中。NHK放映の「天地人」で、六文銭の軍旗が翻る中、真田幸村公の上田城と校門が映り、懐かしい思いで一杯。

44・5期 田中悦次

現在プールで週3回、ゴルフは月1回の生活です。

44・5期 北澤守

後期高齢者の先頭集団の中いると、会報を読むのが楽しみです。

44・4期 中村強

81歳なので年会費免除ですね。会費として送った分は寄付扱いとしてください。2度と戦争を起こさないための運動をしています(9条の会)。「非核千葉の会」常任世話人も

44・4期 星野賢造

健康テニス三昧。80歳以上ダブルス関東オープン優勝。

46期 水澤博

毎年3月上旬、東京で関東上中456会を開催。例年約30人集まり、懇談、校歌、寮歌、凱歌で青春時代を回顧しています。

48期 中澤利雄

ランドゴルフ、吹矢、コーラス、小学校児童登下校ボランティアなどで日々楽しく元氣です。人生万策尽きても天あり地あり未来ありと思えます。

48期 土屋侃司

数年前の総会時に、在校生たちのオーケストラ演奏や、パフォーマンズが素晴らしかったので、次回はできれば生徒たちの出演を希望。

48期 堀内悖

会報第78号、同窓会誌らしく母校の在校生たちの動きが、会員にも刺激を与えてくれました。真山編集長のご活躍を期待しています。脊柱管狭窄症(手術済み)と股関節変形症で体調を崩しました。

49期 前田芳造

6月27日は北総医学会と重なるため欠席です。

49期 清水茂雄(御息女代筆)

3年前より体調を崩し現在も入院が続いております。介護度も進み、退院の見通しもない状態です。

50期 山田秀昭

札幌の老人ホームに入居しています。ここが終の住家です。

50期 宮原巍

今回は寄稿文を載せていただき、ありがとうございます。ミーハーでぶっ飛んだ陽気なおじさんのイメージがあるみたいで、こうした機会を与えられたことに感謝します。

50期 渡辺一雄

昨年血液疾患で4カ月入院し、現在在宅療養中。

51期 堀内弘栄

元氣です。個人ホームページ
<http://www.geocities.jp/outdoors2634/index.html> 上田高校 関東同窓会HPにリンク済です。

51期 保坂利勝

今年の春、何十年ぶりに、同期生の名取市に住んでいた大滝信幸さんから電話があり、以後、手紙や電話で交信しています。友とまた巡り合いたり 梅開く

51期 中島宏

総会の日取りですが、6月末は何十年に1回というような会合が意外に多く、ここ何回か欠席しました。以前のように7月初めの方がよいように思われますが。

51期 上原隆雄

東京上田会「秋の信州うえだの集い」の担当は当校(成田邦夫さんが実行委員長)です。

51期 丸山弘

総会開催通知を2、3カ月前にするよう要検討。同期有志で毎月第2水曜日の夜新宿で集まっています。

51期 飯塚壽

脳出血のリハビリ中です。3-11は信州(軽井沢)です。

51期 八木浩輔

浦和大学の学長を務めて3年目です。出身大学の東大同窓会誌「懐徳6月号」に高校生、大学生向きの小文を書きました。上田高校生にも読ませてください。

52期 橋爪今朝男

相変わらず、合唱団とシルバー人材、老人福祉ボランティアを中心に生涯現役を自称しています。

53期 甲田裕茂

長年努力し開発した水の超微細化の特許技術が新潟三条市(株)コロナに採用され、遅咲きの技術の開発が何とか役立っていることに幸せを感じています。

53期 小林乾泰

土曜日には所属している合唱団(東芝フィルハーモニー合唱団)の練習があり、残念ながら毎回欠席。

54期 馬場武彦

栗山さんには、松尾倶楽部、拡大新年会などでお会いするたび、次期幹事長さん、とお呼びしていましたのが実現してよかったですね。笠井

さん本当にご苦労さまでした。

54期 櫻井敬

東京国分寺市に定住してはや50年。故郷信州より長くなりました。夏期は軽井沢に約1カ月います。

55期 小山治卓

高校の担任であった矢島房利先生が主宰されている寒雷千葉句会という俳句の会に参加しています。

56期 小山莊司

「上田松尾」高校最後の卒業生の56期も、今年はそれぞれ「古稀」の年。同期生同士で「古稀記念の集い」の打ち合わせをしたり、先輩後輩諸氏との歓談も楽しみたいと思います。

56期 赤尾信吉

同窓会誌は内容も濃く、編集皆さまの努力が各ページより感じられます。突えるのは会費納入欄に前後の友人名があり楽しいものです。

56期 金澤正人

身内で、介護用品のレンタル会社経営、手伝いをしております。

56期 濱村邦夫

56期6組の同級会(六文会)が5月27日、28日に鳥羽市の潮路亭で行われました。参加者は15人。翌日、雨の中を伊勢神宮の内宮参拝。付近の一般の家の玄関に「蘇民将来子孫の家」のお札が掲げてあって、信濃

56期 笹沢政道

3月25日、急性骨髄性白血病で急きよ入院治療中です。

56期 長坂光登

昨年10月28日荒木豊治先生(90歳)



がお亡くなりになりました。

57期 宮坂幸雄

昨年10月、関西同窓会主催の半田孝淳(34期)座主の講演を聞きまし
た。半田座主が上田高校の校歌のコ
ピーを下さいました。91歳になつて
も上田高校に青春の思い出があるの
でしょう。感動しました。

58期 青木淳

本を出版しました。文芸社発刊青
木淳著「かかあ天下が駆け抜けた」
定価¥1400+税。

60期 田中一穂

6月14日に60期2組の同級会が上
山田温泉ホテル清風園で開催され、
出席しました。級友10数人が元気に
集い、大いに吞んで語らい、旧交を
温めました。

60期 矢嶋邦彦

当日はボランティア演奏(マンド
リン・ギターアンサンブル)があり、
欠席します。先月はイタリアで演奏
してきました。

60期 武田直樹

上田市の家を建て替え中で暮には
帰る予定です。

61期 馬場通

現役でロシア語の通訳・翻訳を
やっています。一昨年、昨年と2つ
の重要な案件をパラレルでこなして
かなり忙しかつたですが、今年は結
構オフアアが減りました。

62期 宮坂和夫

6月6日開催の62期同期会、ゴルフ
コンペで準優勝し、規定により次回
の幹事をおおせつかりました。

62期 小林眞

1日10^キを目標に家の近くを歩い
ています。フルマラソン、100^キ
マラソンにも挑戦したいと努力中。

62期 小出勝利

現職を定年退職し、嘱託としての
勤務も来年3月までとなりました。

62期 齊藤賢敏

現在中国大陸にて仕事をしていま
すので、失礼します。

63期 関田正幸

63期のゴルフ大会に参加し、大い
に楽しみました。

63期 角田玲子

定年退職後、新採教員指導員3年
目、今年度で完全に退職です。

64期 関川哲

中山道6次を歩き第2回に参加さ
せていただき楽しく良かったです。

64期 島田彰男

昨年5月に生まれ育った千曲市に
Uターンし、現在妻と母との3人で
生活。グループホームのサービスマ
ン責任者をしています。

64期 宮阪信之

6月4日のNHK生活ホットモー
ニングに出演しました。(リユー
マチがテーマでした)

65期 山浦陽士

4月から、再任用職員として引き
続き足立区役所に勤務しています。
65期 深町美由
上場企業にコンサルティングする
野村系の会社に勤務しています。
65期 柳沢敏明
3月に三井住友海上を定年退職し

ました。現在はそこの子会社のコー
ルセンターへアルバイト勤務。

65期 中山正光

60歳で退職し無職でしたが、この
6月からある会社の非常勤監査役と
なる予定です。

66期 瀬上たか子

上田に戻りました。

69期 倉沢裕

宇崎竜童氏の出演、楽しみです。
とても良い企画と思います。

71期 小林清隆

NHK大河ドラマ「天地人」での
真田昌幸がとても狡猾な武将として
描かれていて、閉口しました。

76期 宮川正

沖繩勤務のため出席できません。
93期 坂下千恵
出産が近いため欠席します。

松尾倶楽部新年懇親会へのお誘い

若手女性4人組でサクソ競演

同窓生有志で集う「松尾倶楽部」(代表幹事、54期馬場武彦)が発足40年目を迎え、第136回例会の新年懇親会を2月6日(土)午後、乃木坂の「はあとぴあ乃木坂」で開きます。今年は若い女性4人組「ラ・メール」サクソフオーンカルテットを招いて、ソプラノ、テナー、アルト、バリトンの4種類のサクソによる競演で、クラシックからジャズ、ポップスと多彩な楽曲を心ゆくまで楽しんでもらおうという趣向です。

日時: 2010年2月6日(土) 午後2時より
(1時半受付開始)

場所: 「はあとぴあ乃木坂」(旧健保会館)
東京メトロ千代田線「乃木坂」駅徒歩3分
会費: 8000円 (新年会特別会費)
演奏: 午後2時~3時
懇親の集い: 午後3時~5時

65期新年会のお知らせ

日時: 1月29日(金) 18時半
場所: ホテル銀座ラフィナート
中央区銀座1-26-1
TEL: 03-3561-0777
会費: 8000円
申込: 幹事上原昇(2組)まで
連絡先: 048-641-7749

Wanted 3号、5号

現在、HPに過去の会報を逐次アップしておりますが、3号、5号が見つかりません。お持ちの方はぜひお貸しください。

幹事長 栗山正雄

金属摩擦面のフリクションロスを劇的に改善する省エネ製品

「ナノワークス」の製造販売

人と地球の健康を願う「環境企業」

稀少金属類の
資源開発(中国・ザンビア)

有用資源のアジア域内での
リサイクル

藤堂インターナショナル株式会社 代表取締役 小山 雅堂(65期) 取締役 小宮山 豊(65期)

〒146-0094 東京都大田区東矢口3-30-12 祥明ビル TEL 03-6825-7000 www.todo-nanoworks.com



河野えり子さん (78期)

観音崎自然博物館
主任研究員



幕末に「ペリーの黒船」が来航した地として有名な浦賀（横須賀市浦賀町）。京浜急行本線の浦賀駅から東へ約3キロ、三浦半島の東端に「観音崎自然博物館」がある。周辺の森と海の動植物を生きている状態で展示しているユニークな博物館だ。

河野えりさんはここ主任研究員。「大好きな生物や海に関連した仕事ができるのは、幸せですね」と屈託なく笑う。

旧東部町の生まれ。小学生のころから、ちょっと変わった女の子だった。「田んぼや水路で遊び、毛虫やアリなどをじっと見ているのが好きでした」

高校時代は水泳班で自由形選手として活躍。1年生の時、進路の話をした担任の先生からもらった大学のリストが、その後の人生を決めた。東京水産大学（現東京海洋大学）。「これって面白そう。海や魚が好きなので、ここにしよう、その場で決めてしまいました」

大学では「水産生物研究会」と「水泳部」に所属。男子生徒に交じて遠泳やカッター（短艇）こぎもやった。

就職先の「京急油壺マリンパーク」で最初に任された仕事は、アシカのトレーナー。ショーに出演し、観客から笑いや拍手がわくと楽しくて、夢中になった。プールを泳ぐイルカの背に乗ったこともあるという。

その後、結婚し2人の男児を出産。「日曜日は家にいてほしい」という夫の希望に沿って退職し、8年間、専業主婦を務めた。だが、「水と生物の仕事」への情熱が再び



うずく。下の子が幼稚園に入り、少し余裕ができたころ、近くの博物館がボランティアを募集しているのを知り、早速応募。そこが現在の職場「観音崎自然博物館」だ。

仕事ぶりが認められ、36歳の時、館長から「正規の職員になってほしい」と請われ、再びプロに復帰。今の生活は、まさに「水を得た魚」のようだ。

同博物館は独立採算制の社団法人。収入は会員（法人、個人）の年会費と入館料が主体だが、この不況下、運営はなかなか厳しいらしい。そこで、彼女から同窓生の皆さんに一言。「お子さんやお孫さんと一緒に見に来てください。学校の先生をしている方は、生徒を連れて体験学習にご参加を！」

4月10日に「サマーウォーズ」上映会開催へ！

文化庁メディア芸術祭賞のアニメ部門大賞に輝いた細田守監督のヒット作
ご家族、友人お誘い合わせてご参加ください

日時：2010年4月10日（土）

13時30分上映開始（受付開始13時）

会場：日本教育会館3F 一ツ橋ホール（新年会と同じビル）

千代田区一ツ橋2-6-2（TEL 03-3230-2833）

参加費（運営協力金）：1人につき500円（当日徴収）

同封のはがき、またはFAX、E-mailでご予約ください

▶お問い合わせ、予約先

栗山正雄（当会幹事長）

TEL & FAX: 03-3811-2639（FAXで予約時は会員名、人数を記入）

E-mail: m-kuri@mrf.biglobe.ne.jp



(C)2009 SUMMERWARS FILM PARTNERS

【映画の紹介】上田がふんだんに登場するアニメ映画。日常部分とCGを駆使した仮想世界の壮大な描き方の対比が素晴らしい。劇場でないと味わえない感動がある。

ヒロイン夏希の従弟が上田高校野球部のエースで、甲子園を目指し連日健闘。夏希に誘われて上田を訪れた健二は

仮想世界の合戦で、真田の戦法を使って勝利する。上田高校の甲子園出場は……。時に2010年夏の出来事であった。

監督は「時をかける少女」で好評を博した細田守氏、奥様は上田染谷丘高校の卒業生。

（上映会当日、監督のあいさつ、懇談会も検討中）